

用語	床衝撃音、床衝撃音レベル、床衝撃音遮断性能（ゆかしょうげきおん、	作成：2019.11.14
	ゆかしょうげきおんれべる、ゆかしょうげきおんしゃだんせいのう）	改訂：
説明	人の飛び跳ねや歩行、スプーン等の器物の落下によって床に加えられた力によって発生した振動が下階や上階、隣接する住戸等に伝わって放射される衝撃性の固体伝搬音を床衝撃音という。床衝撃音レベルは、標準衝撃源によって測定される床衝撃音の特性を示す値であり、床衝撃音遮断性能は床衝撃音の発生を抑える程度を示す評価量である。	

素足による歩行や飛び跳ねに代表される“ドスン”“ドスン”と言った重くて柔らかい床衝撃音を重量床衝撃音といい、ハイヒールの歩行やスプーンの落下等に代表される“コツ”“コツ”と言った軽くて硬い床衝撃音を軽量床衝撃音と言う。床衝撃音は集合住宅等の居住者から気になる騒音として指摘される率が高く注意を要する。

重量床衝撃音と軽量床衝撃音では衝撃源の衝撃力特性が異なり、基本的な性能向上方法もそれぞれ異なる。重量床衝撃音の場合は床躯体構造の剛性を増すことが、軽量床衝撃音の場合は床仕上げ材にカーペットや畳など緩衝性のある材を用いることが、性能の向上に最も効果的であると言われている。

床衝撃音遮断性能の測定・評価方法は、JIS や ISO 等で規定されており、我が国では一般に床衝撃音遮断性能の測定は、JIS A 1418-1 に規定された標準軽量衝撃源（タッピングマシン）と JIS A 1418-2 に規定された衝撃力特性(1)を有する標準重量衝撃源（バングマシン）を用いて床を衝撃加振し、その際に発生する床衝撃音レベルを騒音計により計測して行われている。また、床衝撃音遮断性能の評価は、JIS A 1419-2 の附属書 1 に規定された L 曲線による方法が専ら行われている。

なお、床衝撃音レベルも床衝撃音遮断性能も値が小さいほど、性能が高いことを意味する。また、タッピングマシンとバングマシンによる床衝撃音遮断性能の L 曲線による評価結果については、日本建築学会の遮音性能基準に適用等級としてランク分けする方法が示されており、集合住宅等の設計図書で特記仕様として多くの建物に採り入れられている。

#### 参考文献

- 1) 日本建築学会編：建築物の遮音性能基準と設計指針 [第二版]、技報堂出版